

一里塚 無所属 田村栄子

久喜市議会議員

第42号



久喜市議会
会派フェニックス

連絡所〒349-1117 久喜市南栗橋 5-11-7 TEL 0480-52-8240 FAX 0480-55-1124
https://ameblo.jp/tamura-eiko-kuki/ http://tamura-ek2.matrix.jp/

台風19号が教えたもの 豪雨・水害の危機管理 自分の命を自分で守るには 今こそ対策を

田村栄子
久喜市議会議員
総務財政市民常任委員、
予算決算常任委員、議会
広報委員、情報コミュニ
ケーション（ICT）委員
静桜里親の会会長
久喜市放課後子ども教室
栗橋南小みなみっ子ゆう
ゆうプラザ実施委員。

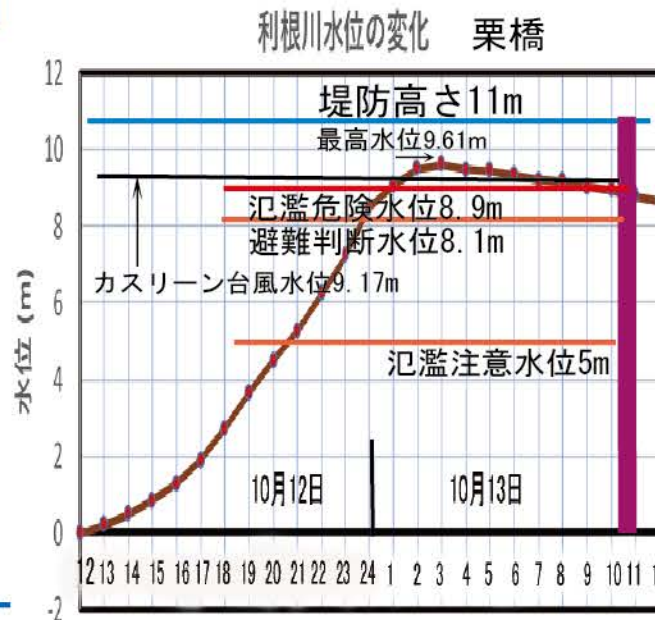


ハッ場ダム(利根川上流
吾妻川、2019年10月29日)

台風19号による豪雨で多くの被害が発生しました。被災された方々にお見舞い申し上げます。久喜市は利根川、荒川が氾濫の危機に曝されましたが、辛くも氾濫は免れました。豪雨は地球温暖化の影響で今後も来ると考えられますので真剣に備えておく必要があります。そこでこの度の豪雨関連情報を私なりに調べてみました。



雨後の利根川(2019.10.13,10am)



利根川水位の上昇速い

水位(栗橋)は10/12正午で0mが、21時氾濫注意水位5m、24時避難判断水位8.1m越え、そして翌13日1時氾濫危険水位8.9m越え、1時過ぎにカスリーン台風の水位9.17mを超え、同3時には9.61mに達しました。特に21時からの4時間は少雨だが上流からの水で1時間1m上昇という速さでした。堤防高さは約11mです。左図参照。

利根川の水の量はものすごい！毎秒1万トン以上

今回豪雨の利根川の流量を求めてみました。川水の断面積(栗橋)は、最高水位9.61mでは国交省の川断面図から計算で約6500㎡でした。流速は位置により違うが、過去データからの試算で平均約2m/s位。よって流量は6,500㎡×2m/s=毎秒13,000㎡となります。毎秒1.3万トンもの水が流れたことになります。

この大雨があと数時間続いたら、川は氾濫していた！
(なお詳細測定による正確な結果は後日発表の国土交通省HP等を御覧下さい。上は対策を急ぐための目安計算であることを予めおことわりします)

左表は今回豪雨の久喜市の対応と利根川上流河川事務所の情報を時系列に並べた表です。水位状況と防災情報との関係を示しています。久喜市は10/12日荒川流域菖蒲地区に15:50避難開始発令しています。利根川は水位が上がり氾濫注意水位(21時)を経て24時に避難判断水位に達し、避難開始・避難所開設は1時間後の翌日午前1時でした。既にこのときは氾濫危険水位に達していました。午前3時には利根川左岸北川辺で越水が起きました。

住民の行動は避難所への避難、遠方避難、自宅垂直避難、避難しないなどに分れました。避難所人数は栗橋地区は約4,900人、住民の2割が避難所へ避難。鷺宮地区は約1,700人、久喜市全体で8696人。

以下は住民情報を踏まえた今後の改善点です。

- * 防災無線は風雨に邪魔され聴き取れない。伝達方法改善必要、サイレン、半鐘なども考えるべき。
- * 避難所は人で溢れ満杯：栗橋小学校、栗橋南小学校、栗西小など。収容能力不足。開くのが遅れた：栗橋北彩高校、約3時間以上遅れ。管理協定の問題か。早めの避難と思い行ったが開いていなかった。避難所開設が遅過ぎる。
- * 避難の交通渋滞が起こった。真夜中にぎりぎりの避難指示は危険。
- * 災害避難情報を流すタイミング。空振りでも良いから早めの防災情報が欲しい。
- * 早めの避難の安全な逃げ方、逃げる方向を示して欲しい。
- * 各自ライフジャケットの備えを。
- * 避難所の開設から片づけまで職員だけでなく学校側の負担も大きかったのでは。市民協働の参加体制を。
- * 自分で考えて避難計画を作り行動するマイタイムライン作りの防災訓練を市と市民で行うことが必要。注意報を早めに出し、遠方高台への早めの水平避難を。避難には防災用品、水・食糧など短期生活用品の十分な準備を。災害弱者ご近所への呼びかけを。
- * ハザードマップは見やすい地区別水害版必要。広域避難で逃げる方向を示すことが必要。* 防災スペシャリストの養成必要。

久喜市の洪水避難情報等

時刻(時)		時刻(時)	
月 日	時刻	久喜市の対応防災情報	利根川上流河川事務所 利根川水位(m)
10月11日	17:00		利根川上流風水害対策支部設置
10月12日	9:00	警戒体制第1配備	-0.48
10月12日	11:30		同上警戒体制に入る(水位上昇の恐れあり)
10月12日	14:00	災害対策本部設置 警戒体制第2配備	0.49
10月12日	15:50	菖蒲地区に避難準備・高齢者等避難開始を発令(荒川域)	1.28
10月12日	20:00		同上非常体制に入る(さらに水位上昇の恐れ)
	21:00		(氾濫注意水位 5m越)→ 5.26
	24:00		(避難判断水位8.1m越)→ 8.47
10月13日	1:00	久喜・栗橋・鷺宮地区に避難準備・高齢者等避難開始を発令	(氾濫危険水位8.9m越)→ 9.04
	1:00	避難所開設	9.04
	1:45		利根川左岸渡良瀬合流点加須市北川辺地先で氾濫の恐れ 9.35
	2:00	市内全域に避難勧告を発令	9.51
	2:30	非常体制第1配備(久喜市職員)	9.56
10月13日	3:00		利根川左岸渡良瀬合流点で越水 9.61
	10:55	避難勧告解除	8.79
	14:15	災害対策本部閉鎖 非常体制第1配備解除	8.22
	21:00		同上警戒体制(避難判断水位を下回る) 6.94
10月14日	22:30		同上注意体制 4.57
10月21日	9:00		同上注意体制解除、対策支部解散 0.78

ダムは洪水調節にどの程度寄与したか？ ハッ場ダム容量は利根川2時間分以下

完成間近のハッ場ダム(有効貯水容量9,000万㎡)で今回試験湛水中に台風の洪水を貯めました。他方運用時は利水もあるので常時の洪水調節容量は6,500万㎡とされています。もし利根川の水全てを受けたとしたら何時間でたまるか。上記の最高水位の利根川流量は1.3万(㎡/秒)であるので6,500万(㎡)/1.3万(㎡/秒)=5000秒=1.38h。単純計算で1.4時間で満杯。

利根川の今回の流量では2時間分以下です。ハッ場ダムは利根川水系でも洪水調節能力は最大級です。今回利根川水系にある多くのダムが洪水調節に寄与したとの見方もありますが、長時間の豪雨ではダムの洪水調節には時間的限界があると考えられます。やはり、**早期の避難**が一番と考えられます。



令和元年(2019)年9月議会は9月3日～10月2日に行われました。田村栄子の質問(9/9)と市の回答の概要です。

大規模災害、洪水時の「自分の命を自分で守る」防災対策を問う

大規模災害時は公助がすぐには難しいのでまず「自分の命を自分で守る」が原則とされているが、現実には簡単にできるものではない。(問)市からのハザードマップの内容理解と使いこなすが必要。住民への啓発の考えと計画は。洪水時はそのときの刻々(リアルタイム)の各地区の浸水予測が必要、その予測情報を行う体制と市民への伝え方を問う。自分の行動計画(マイタイムライン)を立案し的確な判断の避難が命を守ることになるが、そのための、市からの啓発や地域特性を配慮したより小単位での総合訓練が必要である、どう考えているか。

(答)新しい久喜市防災ハザードマップは2019年4月全戸配布以来自主防災会・福祉団体に5回説明会を開催した。今後も予定あり。避難情報は防災行政無線をはじめさまざまなメディアで情報伝達

を行うが、情報が届かない場合もありそのような場合は、声を掛け合うなど地域の皆様に頼らざるを得ない。自主防災組織を組織し平常時から避難訓練を行うなどして隣人との関係性を築くことが望まれる。

浸水予測情報はハザードマップに地点別浸水シミュレーション検索システムを紹介している。水位情報は国土交通省の防災ホームページに載るので危険が及ぶ場合防災無線等で知らせる。

マイタイムラインについては今後、自分にあったマイタイムラインとして具体化していただけるよう説明周知していく。

小学校区より小単位での地域ごとの訓練は自主防災会を組織していただきその中で避難訓練を含めた地域密着型の防災訓練必要。その支援を引き続き行う。

済生会栗橋病院の移転問題 - 現在地での医療体制の今後は -

済生会栗橋病院の加須市移転すると栗橋地区の医療が手薄になり住民は困る。現在地に診療所集合体などの設置(誘致)を望む。

(問)a. 済生会栗橋病院の加須市への移転の原因をどう考えているか。原因は病院側にあったのか久喜市にあったのか。

b. 移転後の久喜市栗橋地区の医療をどう考えているか。診療所誘致についてこれまで久喜市は済生会との会合で毎回住民の思いを伝えているという記録があるが、その後の進捗状況とどうすれば実現するか計画を伺う。

c. 同病院への支援をこれまでポートピア栗橋からの交付金で当てているのは、合併前に当時の栗橋町議会・地権者・自治体でポートピア建設を承認したものであり、そのポートピア栗橋からの環境整備協力費の一部を地域医療の充実のため交付しているものである。この流れを久喜市はどう理解しているか。

d. 同病院移転後の跡地の利用をどう考えているか。

(答)済生会栗橋病院は加須市へ移転後も久喜市を含む利根保健医療圏における中核病院として救急医療を担うものであり、引き続き本市の二次救急を担う。老朽化が進んだことから加須市への移転の覚え書きを加須市と締結した(答えになっていない)。

本市に支払われる久喜市ポートピア栗橋環境整備協力費(ポートピアからの協力費)については使途が定められていなかった。そこで久喜市は同協力費に関する交付金交付要領を作り、同病院へ交付してきた。今後は移転の動きにあわせて今後の経過を見ながら判断する。同病院との意見交換会にて現在地での診療所集合体の開設の要望を同病院に伝えた。また跡地活用は院長自ら検討中なので引き続き確認をする。

道路に車両スピード抑制の対策を

(問)南栗橋の液状化対策工事の一つの道路整備に関して、車両のスピードの出し過ぎ防止のため(舗装後の安全性確保)、凹凸のハンプの設置が効果的であるが、荷物が揺れる影響もあることなので道路をベンガラで色舗装することも有効と考える。いかがか。

(答)通行車両の速度抑制を促すような視覚的効果のある路面表示などを今後設置する。

広報「久喜」の表紙デザイン改善を

(問)「広報くき」がカラー版になったが現状表紙デザインでは市の広報とは分かりにくい。タウン誌と間違われて(中身を見ないで)廃棄されることがある。明確に久喜市の広報とわかる表紙デザインに改善してほしい。

(答)令和元年5月号より、幅広い層に親しまれ易く読みやすいように全面カラー化し一新したつもりである。表示の見直しは明暗の差を明確にするなど今後のポイントの一つ。

男性職員の育児休暇取得奨励を

(問)男性職員の育児休暇取得は、貴重な乳幼児時期での子育てへの父親の参加という大きな意義がある。現実にはなかなか取れていない、取りづらいところがある。父親と接触が多かった子供は学齢期に友だちをつくりやすく、思春期に問題行動を起こすことが少ない報告(ポール・レイバーン著 米国)ある。男性職員に奨励、「イクボス」の上司への啓発も必要と思う。いかがか。

(答)H28年度までは男性の育児休暇取得者はいなかったが、H29年度は18.8%、H30年度は43.3%と着実に増加している。特定事業主行動計画を推進する取り組みで、育児休暇取得者の体験談紹介を行うなどして、子育ての大切さや醍醐味を対象者や上司に伝えることで、取得の意識高揚につなげていきたい。

暮らしと政治を結びます!